

「お互いさまの助け合い」 ～役員生活スタイルに合わせた 無理のない柔軟な町内会運営～

市名坂東町内会 会長 草 ^{くさ} ^{たかこ} 貴子さん



女性役員が担う町内会運営

新興住宅地内の町内会として、平成20年4月1日から運営が開始されました。現役世代が多く、町内会運営に参加できる人が少ない中、「できる人でやりましょう。」と声を掛けたところ、たまたま集まったのが女性の方々でした。最初から女性だけでつくろうという気持ちは一切ありませんでしたが、これまで女性ならではの視点を盛り込みながら、女性役員のみで15年以上、町内会を運営してきました。

無理のない柔軟な運営を目指して

役員会は月1回、月末の木曜日19時から開催し、30～60分で必ず終わらせています。それぞれの事情により、毎回2～3名程度の欠席者がいますが、欠席する場合もLINEグループを活用し、意見が反映される仕組みにしています。

また、家庭が第一と考え、介護や受験等の諸事情により年度の途中に欠員となった場合でも役員の補充は行わず、次期改選まで空席としています。加えて、拘束時間や金銭面の負担を考え、飲み会は行っていません。このように、役員生活スタイルの変化にも柔軟に対応しています。

そのほか、企画立案・事務作業・力仕事など町内会運営に必要な仕事は、役員それぞれの得意分野が生かせるように役割を分担しています。そのことにより役員一人一人の負担を軽減し、無理のない柔軟な町内会運営を行うことができます。

町内会が女性活躍の場へ 仲間と共に楽しく活動

町内会役員としての立場で、地域をより良くしたいという仲間と共に、楽しく活動ができています。家族を支えている立場から、地域の人々を支える町内会役員となり経験を積んだことで、自ら発言し行動できるようになってきました。町内会役員という「役割」と「場所」があることで、女性たちは力を発揮しています。

とりわけ防災への取組には、女性ならではの視点を取り入れました。地域にはもともと集会所がなく、人が集まる場所がほしいと役員会で語り合っていました。会員

にアンケート調査を行い、平成22年に集会所を建設しました。設計の段階から災害時を想定して使い勝手がよい集会所を建設するために知恵を出し合いました。オレンジ系の色を使用し、集会所が明るく暖かい場所になるよう話し合いました。床材は滑らない素材を選び、IHの対面キッチンや収納付きベンチを備え付け、倉庫には女性の背丈でも手が届く災害用備蓄棚や大収納のロフトを設け、毛布や布団を置いています。誰が見ても直ぐに分かるように物品名を貼っており、災害時に迅速に対応できるように工夫しています。



集会所の倉庫（奥にはロフト用の階段あり）

若い子育て世代を応援 子育て支援活動「ずんだっこ」

集会所は地域の人が集まる場だと考えています。高齢者、障害者だけでなく地域で子育てしている若い世代にも大事な拠点です。東日本大震災後、若い親御さんから「小さな子どもと一緒に集まる場所を作ってください。」と申し出があり、平成23年11月から週1回、集会所を開放して子育て支援「ずんだっこ」を始めました。最も多い時には年間延べ1,500名ほどが利用しています。主に節分の豆まきやクリスマス会等を開催しており、イベントを通して、地域内で顔の見える関係ができています。また、集会所に絵本、おもちゃがあるのもこの町内会の特徴です。

町内会運営に新しい風を

町内会運営に多様な視点を取り入れるため、来期からは、現役員からの推薦を受けた2名の男性が役員に就任する予定です。町内会の無理のない柔軟な運営を心掛けてきたことや、役員負担感の少なさ等が役員を引き受けてくれた一因となったかもしれません。新しい風が入るのが本当に楽しみです。